ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	八木　清市

主な担当科目	インターンシップ①,インターンシップ②,クリエイティブ スタディーズ,クリエイティブ・スタディーズ,演出論,公演演習基礎Ⅱ,公演実習Ⅱ,公演実習Ⅲ,公演実習Ⅳ,卒業研究,卒業制作作品研究,舞台スタッフ論②,舞台監督演習,舞台芸術演習基礎Ⅱ,舞台芸術実習①,舞台芸術実習②,舞台芸術実習③

2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	自分の身につけた所見を学生に伝えることで、それを客観的に検証する。
2025年の教育に関する自己評価	教育と言うのは、共に学ぶことだと考えています。学生たちと授業を通して、考えたこと、感じたことを日々反芻することで、今まで出来なかったことが出来るようなれば、それこそ、素晴らしいことだと、考えています。そういう意味では、悪くない成果が見られると思います。自己評価という意味では、まずまずの結果が得られたと思います。

2025年のFD活動に関する自己評価	さまざまな意見に素直に耳を傾けることが出来た。
授業改善のために取り入れた研修内容	特に思いあたりません。学生たちと真摯に向き合うことは、FD以前にも取り組んでおりますので、多様な方法があるのは理解できますが、自分は自分の方法でしか、向き合うことは、本当の意味では出来ないと思います。

2025 年度（秋学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：3590　教員名：八木清市

1）アンケート結果に対する所見

「教育」とは何なのかを考えさせられる。
自分がこの仕事（舞台監督）を長年続けてきた中で、若い人たちに伝えるべきものは、何なのか、彼らに伝えるのではなく、常に自分に問いかけるようにしていきたいと考えている。
それは、一体誰のために、どうしてそれが必要なのか？
それが、自分にとって何だったのか？
等々。

2）要望への対応・改善方策

改善が必要なのであれば、より抜本的なものになる、という気がしている。

① そもそもテアトロジーリオでの学習時間を増やしたい。
舞台スタッフの研究は「舞台」であり、その最も条件の良い、整った場所での講義を、もっと増やすことができれば、と考えている。
たとえば、今年度の 4 月、リッカルド・ムーティ指揮による「ドン・ジョヴァンニ」のテクニカルリハーサルがテアトロジーリオで行われたが、そのような絶好の機会を、もっと有効に利用したい。
今回は、舞台スタッフコースとアートマネジメントコースの学生たちの任意参加という形で、見学を行ったが、これを、正式に授業の形にしたい、と思う。
② 学外での研修を増やしたい。
③ 外部スタッフ、卒業生たちの招聘、さまざまな「声」が聴きたい。
④ その他

3）今後の課題

そもそも大学で教えようと思ったきっかけは、「舞台監督の仕事」を自分なりに整理したいと思ったことだった。そのためには、自分だけ、自分の頭の中だけを整理するのではなく、誰かにそれを伝えることで、「整理」して行こうと考えた時からである。

そう考えたのはもう随分昔、何十年も前のことだが、それから様々な紆余曲折を経ながら、今日を迎えている、という現状である。

今後の課題として、授業のアーカイブ化、体系化を図りたいと考えている。

以　上